

# Don't mind !

## 1 主 題 心をあたためる言葉を考えよう

## 2 主題・教材について

日常生活において、子どもたちは様々な失敗を繰り返し、それを糧として成長していく。学習、運動、演奏、遊び等、集団で活動していて、あと少しというところで失敗した時に、共に活動していた人からどのような言葉をかけられるかによって、その後の気持ちに大きな違いが生じる。相手との日頃の関係性や本人のもちあじに寄るところもあって、決して一概に言えないが、失敗した時にそのことを大きく非難されると、その後の活動で萎縮してしまい、十分力を発揮できなくなってしまうことは多い。また、反対に、心が温まる言葉をかけられると、やる気が出て、さらに頑張ろうとする意欲につながることも少なからずある。

この教材では、自分の伝えたい気持ちをどのような言葉にすると、相手は前向きに行動できるのかを考えさせたい。また、ロールプレイを通して、自分の発する言葉が、相手にどのように受け止められるのかを体験し、相手を攻撃することなく自分の気持ちを伝える方法（アサーティブネス、非攻撃的自己主張）を追求することにつなげたい。

（関連教科・領域：特別活動）

- ## 3 ねらい
- ・自分が発する言葉の力に気づき、相手を尊重する話し方を考える。
  - ・アサーティブネスのスキルの獲得につながる態度を身に付ける。

## 4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	「Don't mind (ドン・マイ)」について考えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Don't mind (ドン・マイ)」という言葉をどのように使っているかを出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな場面において、どんな意味で、どんな気持ちを込めて使っているかを考えさせる。</li> </ul>	
展 開	チームの一員として、航太に対して望むことを考えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文（P.86 L.1～L.10）を読む。</li> <li>・エラーを何度もしてしまった航太をどう思ったかについて意見を交換する。</li> <li>・チームとして航太に望むべきことはどのようなことなのかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分もチームの一員であるという設定で想像させる。</li> </ul>	
	ロールプレイをしよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文（P.86 L.11～P.87）を読む。</li> <li>・4人程度のグループになり、3人の役をする人を決め、亮介、大悟のそれぞれの言葉は、航太にどのように受け止められるかをロールプレイにより確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割を交替して、誰もが航太の役をするようにさせる。</li> <li>・3人の役の他にロールプレイを観察する役もつくり、航太役の表情など、受け止め方の違いなどを観察させるとよい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイが一通り終わったら、航太役をしてみ、亮介役・大悟役のそれぞれから言われたことをどのように感じたかを出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かける言葉によって、また、人によっても受け止め方や感じ方が異なることに気づかせたい。</li> </ul>	
	心を温める言葉、心を冷やす言葉を考えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心を温める言葉、心を冷やす言葉を考え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲がわいてくるものを「心を温め</li> </ul>	

展 開	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアになり、心を温める言葉をかけ合う。</li> </ul>	<p>る言葉」、意欲が失われるものを「心を冷やす言葉」として確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常で経験した言葉でもよいことを伝える。</li> <li>・出された意見を整理しながら板書する。</li> <li>・言葉だけでなく、声の調子や表情なども影響することに気づかせたい。</li> </ul>	板書例
ま と め	<p>学習をふり返ろう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を通して学んだことや感じたことをふり返り、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の自分たちの暮らしに生かせるように考えさせたい。</li> </ul>	

(参考資料：解放出版社 ちょんせいこ 著『学校が元気になるファシリテーター入門講座』)

《板書例》

心を冷やす言葉	心を温める言葉
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いかげんにしろよ！</li> <li>・ おまえ 何してるねん</li> <li>・ なんで できへんねん</li> <li>・ ちゃんととれよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おざこざ</li> <li>・ ドンマイドンマイ！</li> <li>・ だいじょうぶ！</li> <li>・ 次、がんばるな</li> </ul>